

家畜繁殖

| | | | |
|-----|------|-------|--|
| 講師名 | 児玉英樹 | 実務経験等 | 畜産研究所での獣医師としての経験を活かし、家畜の生理機能を理解し、家畜人工授精技術を習得するための講義・実習を担当している。 |
|-----|------|-------|--|

| 科目区分 | 学科・経営科 | 必修・選択 (必修、自由)区分 | 履修 学年 | 開講 学期 | 標準 時間 | 単位数 |
|-----------|--|--------------------|----------|----------|----------|-----|
| 畜産学科・専攻科目 | 畜産・共通 | 必修 | 2 | 前期 | 30 | 2 |
| 使用教科書・副教材 | 家畜人工授精講習会テキスト(家畜人工授精編):(社)日本家畜人工授精師協会、自作プリント | | | | | |
| 授業の目的 | 家畜繁殖の生理機構を理解し、家畜人工授精技術を習得する。 | | | | | |
| 授業の到達目標 | 発情を発見することと、精液を注入することができるようになる。 | | | | | |

| 月日 | 学習項目 | 学 習 事 項 | 時間 | 授業 形式 | 備 考 (提出物等) |
|-------|-------------------|---------------------------------------|----|----------|-------------------------|
| 4月22日 | 神経・内分泌(内分泌概論) | 内分泌概論(ホルモンと作用機序ほか) | 2 | 講義 | |
| 4月23日 | 神経・内分泌(繁殖ホルモン) | 繁殖に関連するホルモン | 2 | 講義 | |
| 5月6日 | 雌の繁殖生理(発情周期) | 発情周期とその制御・調節機構 | 2 | 講義 | |
| 5月7日 | 雌の繁殖生理(発情行動) | 発情行動の観察方法及び検査(直腸検査、超音波検査)方法の概要 | 2 | 講義 | |
| 5月13日 | 雄の繁殖整理(性成熟と精子) | 性成熟と繁殖共用 | 2 | 講義 | |
| 5月21日 | 雄の繁殖整理(牛の交尾と精液) | 牛の交尾・射精と精液 | 2 | 講義 | |
| 5月24日 | 妊娠・分娩(受精と発生) | 牛の妊娠と分娩(受精・発生、胎児・胎膜の発育と着床) | 2 | 講義 | |
| 6月4日 | 妊娠・分娩(妊娠の経過) | 牛の妊娠と分娩(妊娠の経過と妊娠診断、分娩と産褥、繁殖障害) | 2 | 講義 | |
| 6月8日 | 人工授精技術(意義と法規制) | 牛の人工授精技術(意義と法規制、精液の採取と検査) | 2 | 講義 | |
| 6月17日 | 人工授精技術(性別別、精液の保管) | 牛の人工授精技術(性別別処理、精液の凍結保存、保管と取扱い、精液の注入) | 2 | 講義 | |
| 6月25日 | 雌の生殖器・精液注入実習 | 雌牛の生殖器・注入場所、注入器具の名称・操作法、直腸膣法による精液注入手順 | 4 | 実習 | 実習補助:外部講師(Jあ岩手ふるさと)レポート |
| 7月1日 | 直腸検査・注入実習 | 雌牛の直腸検査、注入器具の操作法、直腸膣法による精液注入手順 | 4 | 実習 | レポート |
| 9月2日 | 人工授精技術(衛生管理) | 人工授精用器具器材の殺菌と消毒、人工授精業務の衛生管理 | 2 | 講義 | |
| | | 合計 | 30 | 時間 | |

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

筆記試験の得点、受講態度、レポート等の提出物の内容、出席状況、小テストを勘案して総合的に評価する。

評価割合:筆記試験70%、平常点30%(学習態度、出席状況、レポート、小テスト)

履修に当たっての留意点等

・受講に際しては、事前に教科書等に目を通しておくことが望ましい。授業はテキスト及び自作プリントに沿って行うが、項目が入れ替わることもあるので注意すること。

・実習は総合科学実験棟又は牛舎で行うので、白衣又は作業服等を着用すること。爪は短く切っておくこと。